

さくら市自然環境調査
(平成 27 年度鳥類・植物調査)
報 告 書

平成 28 年 3 月

平成理研株式会社

目 次

I. 調査概要	1
1－1 調査件名	1
1－2 調査目的	1
1－3 調査対象地	1
1－4 調査実施日	1
II. 調査方法	2
2－1 調査地点選定	2
2－2 調査方法	3
2－2－1 鳥類調査	3
2－2－2 植物調査	3
III. 調査結果	4
3－1 鳥類調査結果	4
3－2 植物調査結果	7
3－3 各調査地点の概要	16
3－4 平成 22 年度調査との変化	17

添付資料 1 : 調査写真

添付資料 2 : 鳥類出現種リスト

添付資料 3 : 植物出現種リスト

I. 調査概要

1-1 調査件名

さくら市自然環境調査（平成27年度鳥類・植物調査）

1-2 調査目的

さくら市環境基本計画に基づき、市内の自然環境の状況を把握し、地域の生物多様性の保全のための基礎資料を得ることを目的に、鳥類・植物の現地調査を行った。

1-3 調査対象地

栃木県さくら市区域内

1-4 調査実施日

鳥類調査

春季 : 平成27年5月4日

夏季 : 平成27年6月1日（繁殖期）

冬季 : 平成28年1月9日，平成28年1月13日

※春季及び夏季調査は2班体制により、1日で調査を行った。

植物調査

春季 : 平成27年5月14日，平成27年5月23日

夏季 : 平成27年8月17日，平成27年8月20日

秋季 : 平成27年10月26日，平成27年10月27日

Ⅱ. 調査方法

2-1 調査地点選定

平成22年度に実施した鳥類・植物調査結果と平成27年度の調査結果と比較・検討を行うため、平成22年度と同地点で調査を行った。

自然環境調査地点を図1に示す。



図1 自然環境調査地点図

2-2 調査方法

2-2-1 鳥類調査

現地調査は、調査ルートを2 km/h程度で歩行しながら半径50m以内に出現した鳥類の種類及び個体数を記録するロードサイドセンサス調査とした。

2-2-2 植物調査

植物相、注目すべき植物を現地調査により把握した。植物相の現地調査では、調査地点に生育する植物（シダ植物以上の高等植物）の種類を記録した。

Ⅲ. 調査結果

3-1 鳥類調査結果

本調査結果により、12目31科57種の鳥類が確認された。このうち、2科3種が重要種となった。なお、平成22年度に確認されたコチョウゲンボウ及びサンショウクイの2種は、平成27年度調査では確認されなかった。

確認された重要種一覧を表3-1及び3-2に示し、平成22年度の調査結果についてもあわせて示す。

表3-1 鳥類重要種一覧表

科名	種名	選定基準			調査結果	
		種の保存法	環境省版 第4次レッドリスト 2012	栃木県版 レッドリスト 2011改訂版	H22年度	H27年度
効	オオタカ	■	準絶滅危惧	準絶滅危惧	○	●
	サシバ		絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		●
ハヤブサ	コチョウゲンボウ			準絶滅危惧	○	
サンショウクイ	サンショウクイ		絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	○	
カサギヒタキ	サンコウチョウ			準絶滅危惧		●
4科	5種	1種	3種	5種	3種	3種

※「○」は平成22年度調査で確認された種、「●」は平成27年度調査で確認された種を表す。

表3-2 各地点での鳥類重要種一覧表

科名	種名	調査結果												
		H22年度						H27年度						
		丘陵地			河川	水田			丘陵地			河川	水田	
		①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	
効	オオタカ				○		○			●				
	サシバ							●		●				
ハヤブサ	コチョウゲンボウ						○							
サンショウクイ	サンショウクイ			○										
カサギヒタキ	サンコウチョウ								●					
平成22年度	3科3種	0種	0種	1種	1種	0種	2種	0種	1種	2種	1種	0種	0種	
平成27年度	2科3種													

※「○」は平成22年度調査で確認された種、「●」は平成27年度調査で確認された種を表す。

以下に確認された注目種の生態を記す。

ア. オオタカ

栃木県では、留鳥として平野部から低山の農耕地周辺に多く生息する。主にスズメやハトなどの小型～中型の鳥類を好んで食べる。



オオタカ（平成 27 年 6 月 1 日撮影）

イ. サシバ

栃木県では、夏鳥として、主に平野部から丘陵地の水田や畑に隣接した森林に生息する。主に地上に生息するカエル類やトカゲ類を捕まえて食べるが、夏の時期には昆虫類も食べる。



サシバ（平成 27 年 6 月 1 日撮影）

ウ. サンコウチョウ

栃木県では、夏鳥として、低地から山地の落葉広葉樹林、スギ林に生息する。林内を飛び回り、飛んでいる昆虫類を捕らえて食べる。



サンコウチョウ確認環境（平成 27 年 6 月 1 日撮影）

3-2 植物調査結果

本調査結果により、128科667種の鳥類が確認された。このうち、11科13種が重要種となった。なお、平成22年度に確認されたオトコゼリ、カワラノギク、カワラニガナ、エビネ、ジガバチソウの5種は、平成27年度調査で確認されなかった。

確認された重要種一覧を表3-3及び3-4に示し、平成22年度の調査結果についてもあわせて示す。

表3-3 植物重要種一覧表

科名	種名	選定基準		調査結果	
		環境省版 第4次レッドリスト 2012	栃木県版 レッドリスト 2011改訂版	H22年度	H27年度
ミズニラ	ミズニラ	準絶滅危惧	要注目	○	●
イラクサ	トキホコリ	絶滅危惧Ⅱ類	要注目	○	●
キノボウケ	オトコゼリ		準絶滅危惧	○	
トウダイクサ	ヒトツバハギ		準絶滅危惧	○	●
ミハギ	ミズマツバ	絶滅危惧Ⅱ類	要注目	○	●
セリ	ヌマセリ	絶滅危惧Ⅱ類	要注目	○	●
マチソ	ヒメナエ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○	●
シソ	ツルカソウ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	○	●
	ミズネノオ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	○	●
キク	カワラノギク	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○	
	カワラニガナ	準絶滅危惧	要注目	○	
オモダカ	アギナシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	○	●
イネ	ヒゲシバ		準絶滅危惧		●
ミクリ	ミクリ	準絶滅危惧	要注目	○	●
	ナガエミクリ	準絶滅危惧	要注目	○	●
カヤツクサ	ハタヘカンガレイ	絶滅危惧Ⅱ類	要注目	○	●
ラン	エビネ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	○	
	ジガバチソウ		準絶滅危惧	○	
13科	17種	14種	17種	17種	13種

※「○」は平成22年度調査で確認された種、「●」は平成27年度調査で確認された種を表す。

表 3-4 各地点での植物重要種一覧表

科名	種名	調査結果											
		平成 22 年度						平成 27 年度					
		丘陵地			河川	水田		丘陵地			河川	水田	
		①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
ミズニラ	ミズニラ						○	●					●
イラクサ	トキホコリ		○					●	●				
キンボウケ	オトコゼリ	○											
トウダイクサ	ヒツバハギ		○						●				
ミソハギ	ミスマツバ	○	○			○		●				●	
セリ	ヌマゼリ	○	○					●	●				
マチン	ヒメナエ	○						●					
シソ	ツルカソウ			○						●			
	ミスネノオ					○	○					●	
キク	カラノキク				○								
	カラニガナ				○								
オモダカ	アギナシ	○						●					
イネ	ヒゲシバ							●					
ミクリ	ミクリ					○	○					●	●
	ナガエミクリ					○						●	●
カヤツクサ	ハタバカンガレイ						○					●	
ラン	エビネ			○									
	ジガバチソウ	○											
平成 22 年度	13 科 17 種	6 種	4 種	2 種	2 種	4 種	4 種	7 種	3 種	1 種	0 種	4 種	4 種
平成 27 年度	11 科 13 種												

※「○」は平成22年度調査で確認された種、「●」は平成27年度調査で確認された種を表す。

以下に確認された貴重種の生態を記す。

ア. ミズニラ

夏緑性の多年草の水湿植物で暖温帯の池沼、川底、まれに湿地に生育する。



流水中のミズニラ（平成 27 年 8 月 20 日撮影）

イ. トキホコリ

一年草で暖温帯から冷温帯にかけての人家付近の湿地や畦に生育する。



群生するトキホコリ（平成 27 年 8 月 20 日撮影）

ウ. ヒトツバハギ

夏緑性の低木で暖温帯の丘陵や草地に生育する。



水田付近のヒトツバハギ (平成 27 年 8 月 10 日撮影)

エ. ミズマツバ

一年草で暖温帯の湿地に生育する。水田の中や湿地で時に群生する。



水田内のミズマツバ (平成 27 年 8 月 17 日撮影)

オ. ヌマゼリ

多年草の水湿植物で中間温帯から冷温帯にかけての湿地に生育する。



水路内のヌマゼリ (平成 27 年 8 月 20 日撮影)

カ. ヒメナエ

一年草で亜熱帯から暖温帯にかけての湿地に生育する。



畦に生育するヒメナエ (平成 27 年 8 月 20 日撮影)

キ. ツルカコソウ

多年草の半地中植物で中間温帯から冷温帯にかけての草原に生育する。



林内に生育するツルカコソウ（平成 27 年 5 月 14 日撮影）

ク. ミズネコノオ

一年草で亜熱帯から暖温帯にかけての水田や低湿地に生育する。



水田内のミズネコノオ（平成 27 年 8 月 17 日撮影）

ケ. アギナシ

多年草の水湿植物で暖温帯から冷温帯にかけての水湿地や池・沼に生育する。



休耕田内のアギナシ（平成 27 年 8 月 20 日撮影）

コ. ヒゲシバ

小型の一年草のイネ科植物で、温帯にかけて、湿潤な低茎草地などに生育する。



畑地周辺に生育するヒゲシバ（平成 27 年 10 月 27 日撮影）

サ. ミクリ

多年草の水湿植物で亜熱帯から亜寒帯にかけて、河川などに生育する。



水路内のミクリ (平成 27 年 8 月 20 日撮影)

シ. ナガエミクリ

多年草の水湿植物で暖温帯から冷温帯にかけて、河川などに生育する。



水路内のナガエミクリ (平成 27 年 8 月 20 日撮影)

ス. ハタベカンガレイ

水中に生える多年草で河川などの流水中に生育する。



水路内のハタベカンガレイ (平成 27 年 8 月 20 日撮影)

3-3 各調査地点の概要

ア. 丘陵地（地点①～③）

本市の丘陵地は、スギ・ヒノキの植林が大半を占めているが、一部にはまとまった落葉広葉樹林がある。また、谷部には開けた谷津田が広がっているほか、多くの林が河川、水田等の水辺環境と隣接し、多様な自然環境を形成している。しかしながら、前回調査に比べ、水路沿いの土手の草刈りが行われなくなり、荒地化した場所や樹林地内の林床にアズマネザサが繁茂するようになった場所が増加している状況であった。

本調査では、鳥類が地点①、②、③において、それぞれ 26 種、31 種、30 種確認され、まとまった森林や水辺環境では、猛禽類のオオタカ、サシバの繁殖やサンコウチョウの鳴き声が確認された。

植物については、地点①、②、③において、それぞれ 399 種、452 種、312 種確認され、草刈り等の管理がよく行われているところでは、ヒトツバハギやヌマゼリなどが生育していた。

イ. 河川（地点④）

本市を代表する河川の一つである鬼怒川河川敷の一部には、ヤナギ類やアカマツなどが優占する河畔林やイネ科植物の優占する草地が広がっている。

本調査では鳥類が 36 種確認され、里山環境に生息するサシバも確認された。

植物については 233 種確認され、鬼怒川河川敷きでは、シナダレスズメガヤ等の外来のイネ科牧草が優占しており、カララノギク、カララニガナなどの重要種は確認できなかった。

ウ. 水田（地点⑤、⑥）

本市南部の大部分は水田地帯であり、その中を大小様々な水路が走っている。また、小規模ではあるが社寺林や屋敷林などが点在している。

本調査では、鳥類が地点⑤、⑥において、それぞれ 28 種、22 種確認され、水田や草地に多いサギ類やオオヨシキリ、セッカなどが確認された。

植物については、地点⑤、⑥において、それぞれ 225、184 種確認され、水路内では、ミクリ、ナガエミクリなどが比較的多く生育していた。

3-4 平成 22 年度調査との変化

ア. 丘陵地（地点①～③）

今回の調査結果によれば、丘陵地の地点①及び地点②では、休耕地や土水路の草刈りが行われなくなった場所で、セイタカアワダチソウなどの高茎植物の繁茂が目立つようになった。平成 22 年度の調査で確認していたヌマゼリの一部と休耕地に生育していたオトコゼリについては、平成 27 年度の調査で確認されなくなった。また、地点③のツルカコソウ生育地では、アズマネザサの繁茂と林内を流れる沢水が枯渇しており、前回調査に比べ、生育環境が大きく変化した。



地点③林内を流れる小川の様子
(平成 27 年 5 月 23 日撮影)

イ. 河川（地点④）

鬼怒川の地点④において、平成 22 年度に確認されていた重要種のカワラノギク及びカワラニガナが、平成 27 年度の調査で確認されなくなった。確認地点には外来のシナダレスズメガヤ等のイネ科植物が繁茂しており、重要種の生育地となる自然裸地の環境が減少したことが、これら重要種の減少につながっていると判断される。



地点④シナダレスズメガヤが優占する鬼怒川河川敷
(平成 27 年 10 月 26 日撮影)

ウ. 水田（地点⑤, ⑥）

水田の地点⑤及び地点⑥では、一部の水田が畑地に変わり、ミズネコノオが確認されなくなった場所がみられたが、丘陵地及び河川に比べ、大きな変化は見られなかった。